

平和を考える「小中学生作文集第三十四集」の発行によせて

沼 津 市

沼津市教育委員会

沼津市は、昭和六十二年三月二十日に、市議会の議決を得て「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。核兵器の廃絶は、世界の人々の共通の願いであり、核戦争の危機に対する市民及び市議会の意思を踏まえて、平和への願いをあらわしたものです。

この作文集は、市内の小中学生が、授業や各メディア、身近な人の体験談などから、平和について感じたことを作文や詩で表現した作品を掲載したものであり、本年も多くの作品が寄せられ、第三十四集として発刊することができました。発刊にあたって、ご理解、ご協力をいただいた小中学生の皆さんや関係者の方々に、心から感謝申し上げます。

終戦から間もなく八十年を迎えようとしています。戦争を実際に体験された方の生の声を聞く機会が急速に失われつつあるなか、一昨年突如ウクライナで戦争がはじまりました。戦争をどこか遠い国の出来事として捉えていた子供たちも、連日のように報じられるこの戦争によって、図らずも戦争や平和について改めて考えるきっかけになったようです。

作文の中では、戦争の悲惨で過酷な状況に置かれた同年代の少年、少女に自身を重ね、現在の当たり前で平和な生活がどれほど幸せなことなのかを改めて感じたというもの、戦争や被爆の悲惨さについて正面から向き合い、自分に出来ることを模索したものなど、戦争を知らない世代だからこそすべきことは何なのかと真剣に考える姿勢がうかがえました。

平和を希求する心はいつの時代も不変です。小中学生の皆さんが、この作文集を通じて抱いた想いを忘れることなく、平和な未来を築き、さらにまた次の世代へ引き継いでいかれることを信じています。

どうか、一人でも多くの方々に、平和を愛する子供たちの声が届くことを願っております。